



人生 100 年時代にあって 地域の絆でコロナ禍を乗り越える これからの市立公民館の運営について

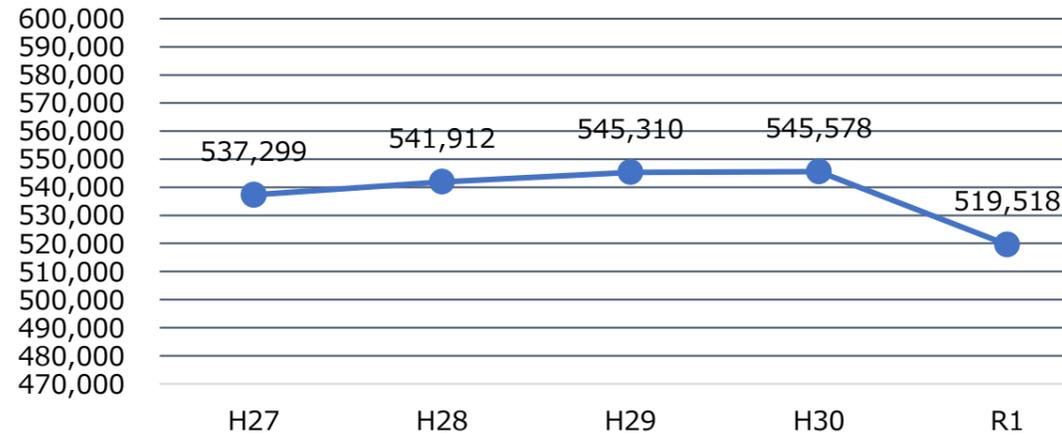
高岡市教育将来構想検討会議（平成 30 年 4 月設置）は、本市における学校教育及び社会教育・生涯学習等の振興に向け、中長期の視点から教育の将来構想を策定することとし、これまでも、小中学校の配置の基本的な方向や二上まなび交流館や青年の家の在り方について答申を取りまとめてきました。

今回は、昨年度から進めてきた市立公民館の在り方について、対象の 36 市立公民館で開催した地域懇談会でお聞きした課題や要望を基本に、今後の一層の有効活用に向け、本骨子案を取りまとめました。

人と人がつながる文化創造都市高岡の実現に向けて、またコロナ禍という未曾有の社会課題に直面するなか、**36 の市立公民館を地域コミュニティの核として、市民一人一人が地域に愛着と誇りを持ち、主体的に学び、つながり、さらには地域課題の解決に取り組むなど、地域コミュニティの身近な拠点として、より有効に活用されるよう、その基本的な方向を以下に示しました。**

全国的にも活発な公民館活動

○市民 1 人当たりの公民館利用回数は 3.0 回(H30)、国民 1 人当たりは 1.3 回
利用者数（人）
(H30 社会教育調査報告書より)



※令和元年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための閉館等により利用者数が減少

地域拠点として多様な活動を展開



スマホ教室



三世代交流活動



公民館まつり



シャイニングキッズダンス

生涯学習・サークル活動

94 種類、587 サークル (R2.4) が活動しています。詩吟や民謡、体操、書道等、高齢者中心のサークルが多く見られるほか、近年では、若い女性に人気があるヨガや料理、子ども向けの空手やダンス等のサークルも増えています。



ヨガサークル



校区自主防災訓練

自治会・団体活動

連合自治会や地域の各種団体の活動拠点として、団体の事務局が設置されているところもあります。会議や総会、自主防災訓練や独居老人への配食など、多様な事業において、多くの団体に幅広く活用されています。



食生活改善推進協議会 配食

36 市立公民館の配置



※高岡市の市立公民館は、これまでの市町村合併の経緯や個々の地域事情を反映し、次の表のように大きく 4 つの形態に分かれます。

設置形態	館数	公民館名
単独公民館	14	博労、成美、平米、定塚、下関、横田、西条、川原、木津、二上、古府、北般若、是戸、醍醐
地区連絡センター併設公民館	13	能町、野村、二塚、佐野、守山、福岡、国吉、牧野、太田、石堤、東五位、小勢、立野
福岡地区公民館	6	福岡中央、福岡、山王、大滝、西五位、赤丸
支所併設公民館	3	伏木、戸出、中田
計	36	

令和3年2月
高岡市教育将来構想検討会議

基本的な考え方

市民が主役の身近なコミュニティ拠点づくりの推進

— 学び・つながり、地域課題解決に取り組む公民館運営 —

地域の実情を踏まえつつ、
時代の変化に対応した公民館
運営が求められます。

多様な公民館の設置経緯
各地域の独自の経緯を経て現在の姿に

少子、高齢化の進み具合は地域間で大きな差
地区別高齢化率は 23.9% から 42.7%、地域によって大きく異なります

人生 100 年時代、コロナ禍、70 歳までの就業
時代は大きく変化し、新たな日常をつくっていくことが求められています

● 高岡らしい心豊かに暮らせるコミュニティづくりの推進

コロナ禍にあって大都市への一極集中が見直されています。高岡には長年培ってきた地域に根付く豊かな人々の絆や自然、歴史文化など素晴らしい生活環境があります。

この高岡の良さを再認識し、今後も各世代が心豊かに暮らすことができる地域づくりを進めるために、公民館を身近な拠点として有効に活用することが大切です。



● 地域ニーズに即し、気軽に利用できる弾力的な運営へ

放課後に、子どもたちが地域で過ごすことができる場や、子育て世代の皆さんが子育てについて気軽に話し合える場、年配の方が立ち寄って、ちょっとした会話を交わすことができる場など、地域の中で、居場所を求める声を多く聞きました。

また、自主的に運営に取り組みたいという地区もあり、地域ニーズに即して、より弾力的な運営方法を導入していくことが望まれます。



● 市民全員がコミュニティづくりの大切な担い手

市立公民館は、明治以降の市町村合併の経緯の中で、住民自治の機能を併せ持ち、地域づくりにも大きな役割を果たしてきました。今後も、身近な地域コミュニティの拠点として、多様な活用が期待されています。

そして、地域づくりの担い手は市民の皆さんです。コロナ禍や地域課題を共に乗り越えていこうとする、主体的な取り組みが一層重要となっています。



より多くの方にご利用いただくために

具体的な取り組み例

ア 積極的な活動周知

より多くの方にご利用いただくよう、公民館の様々な活動を、市民の皆さんに広く知っていただくことが大切です。SNS やコミュニティペーパー、ケーブルテレビでの紹介など、積極的な発信が必要です。



イ 居場所づくりの推進

公民館へ行く「きっかけがない」との意見が多くありました。子どもが宿題を一緒にしたり、遊んだり、子育て世代やシニア世代が気軽に足を運べる居場所づくりが求められています。人をつなぐ役割がより大切になっています。



ウ ICT環境の整備と活用

オンラインでの講座や会議など、ICTの積極的な活用は、公民館での活動をより多様なものとしします。多くの公民館が防災避難施設にも指定されています。wi-fiを整備するなど、機能の向上が望まれます。



エ 地域の誇りの共有継承

各地域には、独自の歴史や文化、伝承、祭礼などがあり、世代を越えて引き継がれてきました。ふるさとの素晴らしさ、誇りを若い世代へ引き継ぎ、共有することが地域の活力を引き出すことにつながります。



オ 豊かさづくりの推進

健康寿命は男性 72 歳、女性 74 歳。70 歳まで働く、人生 100 年時代、健康寿命の延伸は大きな課題です。生涯をとおした健康づくりの取り組みが普及するよう、健康・福祉・ボランティア等の活動の充実が望まれます。

地域の実情に応じた弾力的な運営の推進

ア 市民がつくり支える弾力的な運営に取り組む実証事業の実施

地域と行政が協力し、新しい仕組みを考え、地域ぐるみで運営するモデル事業の実施が必要です。

イ 行政と地域との連携強化による支援の充実

行政部局間の連携体制を整え、支援をより効果的に行うことが望まれます。

ウ 公民館職員の専門性の向上と県外移住者なども含めた適切な人材の確保

多様で柔軟な運営が求められる中、職員の資質能力向上、人材確保に積極的な取り組みが必要です。

エ 学校との円滑な連携による地域で学ぶ活動の充実、生活福祉や防災機能の拡充

学校との連携協力による子どもたちの活動の充実、地域の安全安心を守る機能の拡充が望まれます。

既存施設の有効活用と持続可能な運営の推進

ア 既存施設を活用した機能等の拡充の促進

公共施設の適正配置の観点も踏まえ、持続可能な施設運営に努める必要があります。

イ 全員が地域の担い手として共に地域を豊かにする実践の普及拡大

自らの地域を互いの信頼と協力によってより良くしていこうと、思いを共有していくことが大切です。

ウ 市職員も地域コミュニティの一員として積極的な取り組みを

地域行政の専門家である市の職員の皆さんにも、地域住民としての取り組みが期待されています。